
仮面

彩人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面

【Nコード】

N0037N

【作者名】

彩人

【あらすじ】

”仮面”：愛想笑いだったり、八方美人だったり、貴方もそういう”仮面”を被っていませんか？
作者は、被って生きてきました。
そんな思いから呟いた文章です。

いつから人は“仮面”を被るようになったのだろう。
最初は気付かないほど小さな仮面。

その仮面は“愛想笑い”を模っていたように思う。
その仮面を被ると、人は可笑しくも無いのに笑えて、哀しくて泣きたい時にも笑う事が出来た。

その仮面が馴染んだ頃、次に付けた仮面は何だったか。
ああ、そうだ。

確か“八方美人”とよく似ていたような気がする。
この仮面もまた便利だった。

誰にでも良い顔が出来て、誰にでも好かれて。
でも、その一方でそれがただの“イイ人”で片付けられる事を知った。

誰かの為を思ってしまったことが、誰からみても“都合の”イイ人であり、また“どうしても”イイ人である事を教えられた。
これはさすがに哀しかった…。

時は過ぎ、大人になるごとに新しい仮面が増える。
社交辞令を覚え、本音を隠し、そうすることで上手くいきているつもりになった。

“実際にどうだったか…”なんて、聞かないで欲しい。

今では、どれがホントの“自分の顔”なのかさえも分からなくなってしまったのだから。

重ね、重ねた“仮面”は重く。

自分では剥がす事さえ出来なくなった。

誰かこの仮面を剥がしてくれないだろうか…。

そう思った処で、誰が自分を見てくれるのか。

仮面^{ウツ}で塗り固めた“私”を、誰が分かってくれるのか。

今ではあの月だけが、私を見守る唯一のモノ―。

重たい仮面をつけたまま、今日も私は生きていく―。

(後書き)

ただの呟き程度の文章です。

自分が生きてきた人生が、仮面を被ったみたいに感じられたので…。一度被りだすと、どんどん止まらなくなって気づいた時には手遅れになっている事があります。

今更、この生き方や接し方をガラッと変える事は難しいのです。

そんな思いでかきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0037n/>

仮面

2010年10月12日04時17分発行